

ロボット・テクノロジー関連株ファンド ーロボテックー

<2718>

追加型投信／内外／株式
日経新聞掲載名：ロボテック

第4期 2017年9月13日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第4期末	基準価額	11,926円
	純資産総額	222,412百万円
第4期	騰落率	13.2%
	分配金	450円


(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

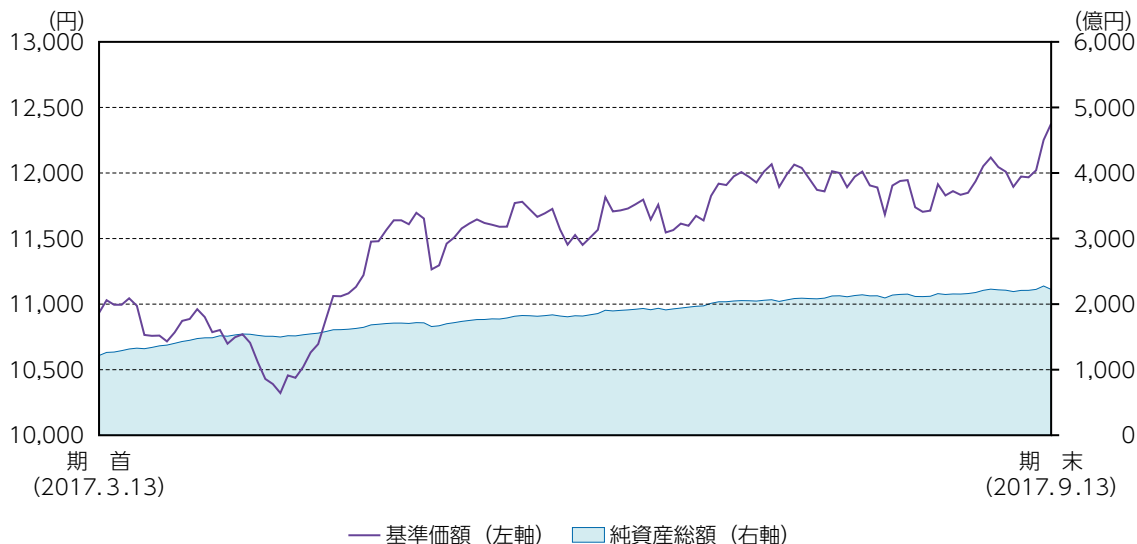
「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

1. 上記のURLにアクセス
2. 「さくっと検索」にファンド名を入力
3. 「目論見書レポート」を選択
4. 「運用報告書(全体版)」を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,933円

期末：11,926円 (分配金450円)

騰落率：13.2% (分配金込み)

■ 基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、主に米国や日本の株式市況に加え、ユーロが対円で上昇したことなどがプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2017.3.14~2017.9.13)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	70円	0.612%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は11,504円です。
(投 信 会 社)	(22)	(0.191)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目 論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(47)	(0.408)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後 の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(2)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.001	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	71	0.613	

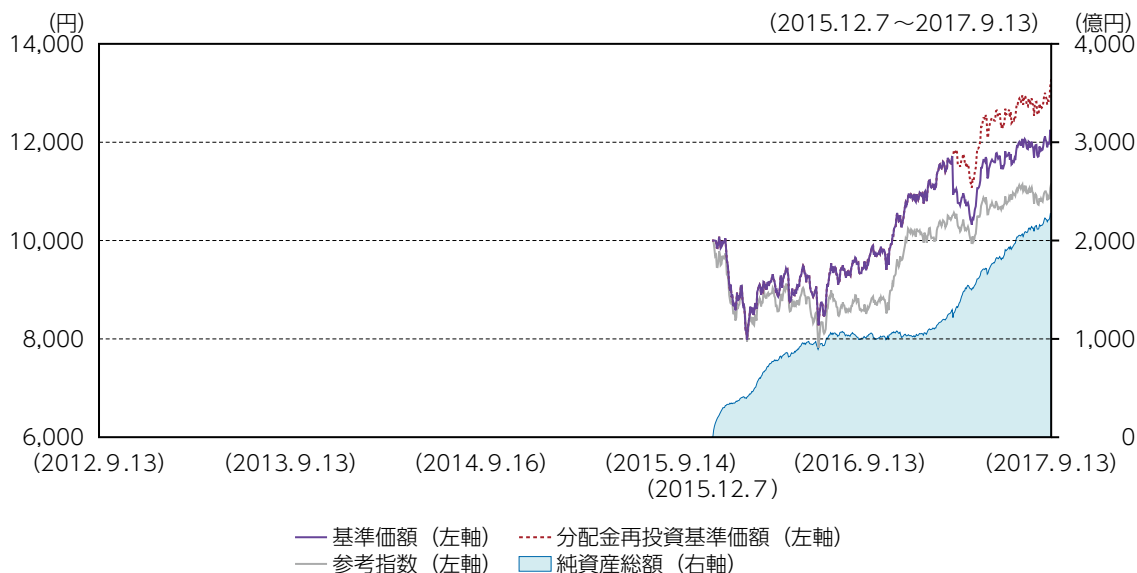
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2015年12月7日を10,000として指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまが利用するコースにより異なります。また、分配金の課税条件は、ファンドの購入価額により異なります。
- * 参考指数はMSCI AC World指数（配当込み、円換算）です。

		2015年12月7日 設定	2016年9月13日 決算日	2017年9月13日 決算日
基準価額（分配落）	(円)	10,000	9,333	11,926
期間分配金合計（税込み）	(円)	—	0	1,250
分配金再投資基準価額の騰落率（%）		—	△6.7	42.3
MSCI AC World指数（配当込み、円換算）騰落率（%）		—	△14.0	29.8
純資産総額	(百万円)	100	99,403	222,412

(注1) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc.の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに大和投資信託が円換算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

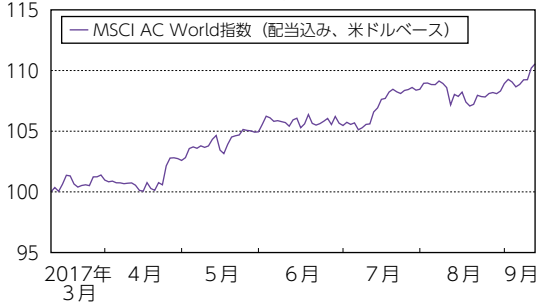
(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

投資環境について

(2017.3.14~2017.9.13)

■グローバル株式市況

株式指数の推移

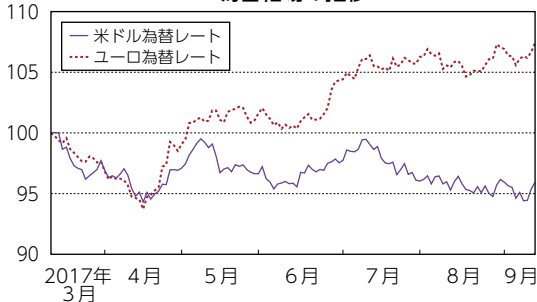


(指数は期首を100として指数化しています。)

グローバル株式市況は、シリアおよび北朝鮮における地政学リスクの高まりやフランス大統領選挙の不透明感などが嫌気され、期首から2017年4月中旬にかけて軟調な展開となりました。その後、フランス大統領選挙の結果を受けた政治リスクの後退や米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がったこと、また米国を中心とした堅調な経済指標や企業業績などを受け、上昇基調となりました。8月中旬にかけて、北朝鮮情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりや米国トランプ政権の政策実行力への先行き不透明感などから上値の重くなる局面もありましたが、期末にかけては、米国の税制改革の進展期待や地政学リスクの後退などから、堅調に推移しました。

■為替相場 (米ドル/円、ユーロ/円)

為替相場の推移



(為替レートは対円で、期首を100として指数化しています。)

為替相場は、通貨によってまちまちの動きとなりました。北朝鮮情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりや米国の利上げペースが緩やかになるとの見通しなどから、米ドルは対円で下落しました。一方で、フランス大統領選挙のマクロン氏勝利で政治リスクが後退したことや欧州経済が回復基調となったことなどから、ユーロは対円で上昇しました。

前期における「今後の運用方針」

■当ファンド

「アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)」(以下「ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)」)といたします。)の受益証券の組入比率を、通常の状態 で高位に維持することを基本とします。

■ ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行ないます。「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

世界的に低成長が続く中で、ロボット産業は、新興国の賃金インフレや高齢化による労働力不足など、社会的なニーズが高いことから今後の成長が大いに期待されている分野です。米国のトランプ政権は自国の雇用拡大を声高に掲げており、特に製造業において設備投資の拡大が見込まれることから、自動化やロボット技術分野への需要が喚起されることが予想されます。また、中国政府が掲げる「メイドインチャイナ2025」政策もロボット導入を加速させていくと見込まれます。米国のトランプ政権の政策や英国のEU（欧州連合）離脱がマクロ経済に与える影響については注視が必要となりますが、ロボット関連産業の成長を下支えする構造は底堅く、引き続き、期待度の高いロボット関連産業の企業に投資を行なうことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

■ ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

ポートフォリオについて

(2017.3.14~2017.9.13)

■ 当ファンド

当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券とダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当期は、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券を高位に組み入れました。

■ ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行ない、信託財産の成長をめざしました。「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業など、「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業など、「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目して運用を行ないました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株から、ナブテスコヤルメンタム・ホールディングスなどの中小型株にも幅広く投資を行ない、地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資を行ないました。

当期は、ADAS（先進運転支援システム）に用いられ、自動車のインテリジェント化が進むに連れ自社製品の需要拡大が期待される日本の半導体企業などを新規に組み入れました。期末の組入上位銘柄は、日本のキーエンス（情報技術）、安川電機（情報技術）、ファナック（資本財・サービス）、米国のアルファベット（情報技術）、ドイツのシーメンス（資本財・サービス）などでした。

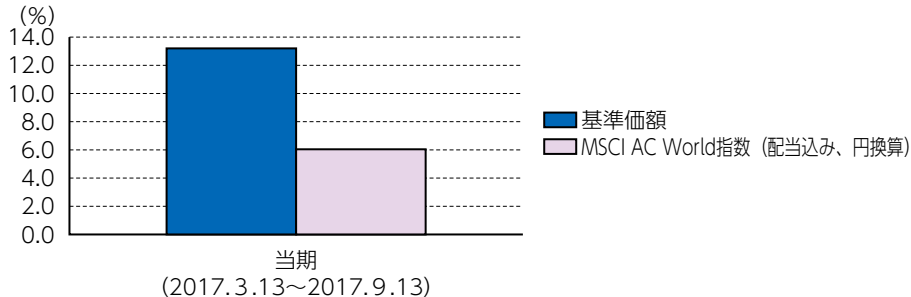
ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当期の1万口当たり分配金（税込み）は450円といたしました。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項目	当 期	
	2017年3月14日 ～2017年9月13日	
当期分配金（税込み）	(円)	450
対基準価額比率	(%)	3.64
当期の収益	(円)	450
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	1,925

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	1,133.69
(c) 収益調整金	830.84
(d) 分配準備積立金	411.34
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	2,375.88
(f) 分配金	450.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,925.88

(注) 下線を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行ないます。「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業など、「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業、「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

英国のEU離脱や米国トランプ政権の政策などをめぐる混乱がマクロ経済や企業の投資判断・事業計画などに与える影響については注視が必要となりますが、社会的なニーズ（新興国の賃金インフレ、高齢化による労働力不足）などロボット関連産業の成長を下支えする構造が底堅いことに加え、欧州と日本で緩和的な金融政策が維持されていることなどが、株式市場の支援材料になる見通しです。このような環境の下、引き続き、成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行なうことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行なう方針です。

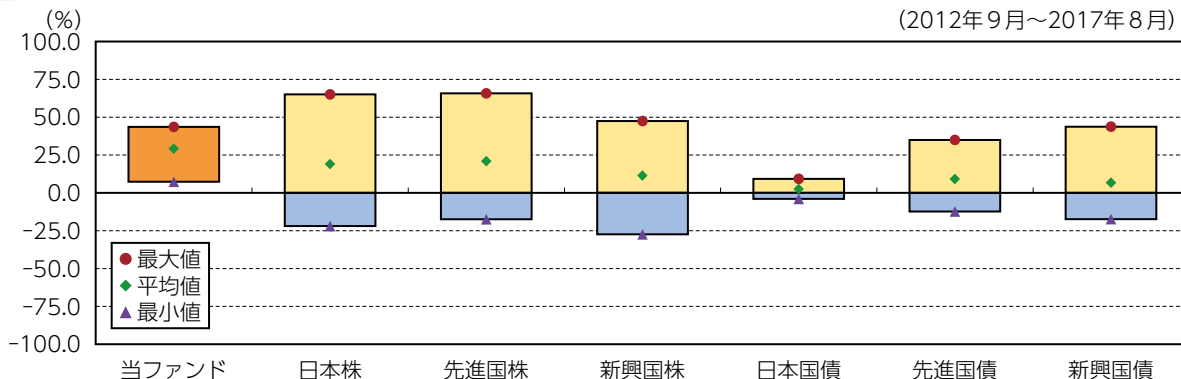


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	約9年9カ月間（2015年12月7日～2025年9月12日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ、アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）（以下「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」といいます。）の受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	<p>①主として、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）への投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>③ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。</p> <p>②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	43.6	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
平均値	29.2	19.0	21.0	11.4	2.5	9.2	6.7
最小値	7.4	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※当ファンドは、設定日が2015年12月7日であることから、年間騰落率が算出できない期間があるため、算出可能な期間についてのみ表示しています。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマーシング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマーシング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCが開発したインデックスです。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利は同社に帰属します。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマーシング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



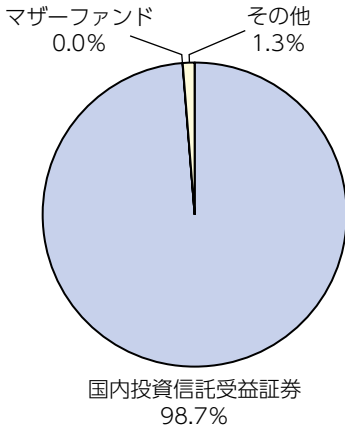
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

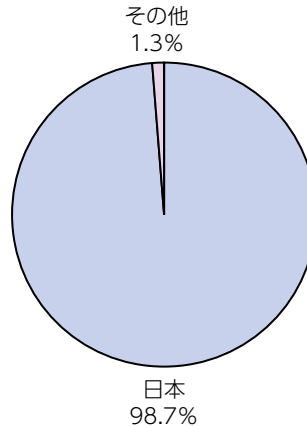
組入ファンド等

	比 率
ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）	98.7%
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	0.0
その他	1.3

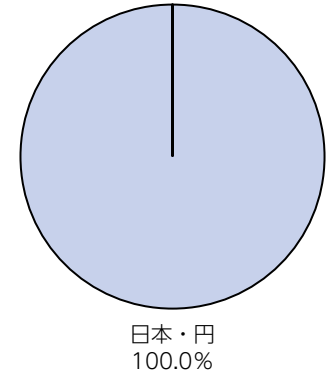
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2017年9月13日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行なっています。組入資産の内容については、次ページの「組入上位ファンドの概要」をご参照ください。

純資産等

項 目	当 期 末
	2017年9月13日
純資産総額	222,412,018,176円
受益権総口数	186,496,330,025口
1万口当り基準価額	11,926円

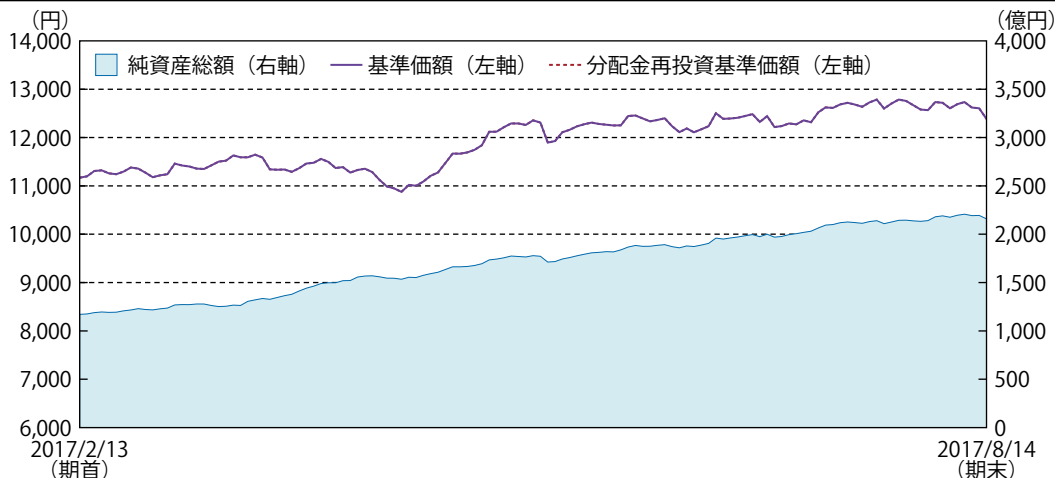
* 当期中における追加設定元本額は126,564,066,053円、同解約元本額は51,323,043,931円です。

組入上位ファンドの概要

◆アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）
（計算期間 2017年2月14日～2017年8月14日）

■基準価額等の推移について

（2017年2月14日～2017年8月14日）



期首：11,170円
 期末：12,384円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰落率：10.9%（分配金再投資ベース）

■1万口当たりの費用明細

（2017年2月14日～2017年8月14日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	34円	0.283%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は11,945円です。
（投信会社）	(32)	(0.269)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(0)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	5	0.046	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（株式）	(5)	(0.046)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用	1	0.008	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.002)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	40	0.336	

（注1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（注4）売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド等

(組入銘柄数：1銘柄)

フ ァ ン ド 名	第3期末
	2017年8月14日
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	100.0%

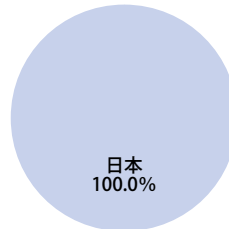
(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

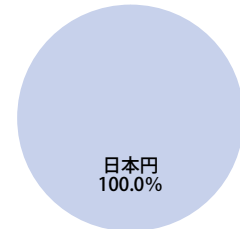
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

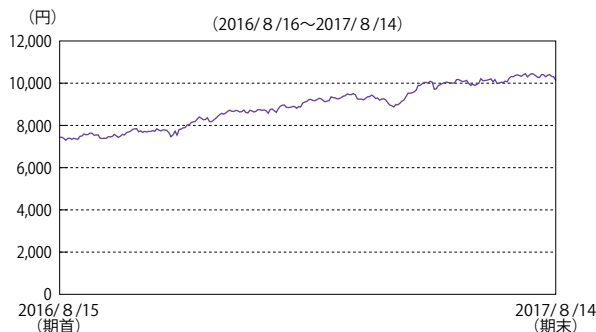


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

※以下のファンドはアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）が組み入れているファンドです。

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

【基準価額の推移】



— 基準価額 (左軸)

【1万口当たりの費用明細】

(2016年8月16日~2017年8月14日)

	金額	比率
売買委託手数料 (株 式)	8円 (8)	0.094% (0.094)
その他費用 (保管費用) (その他)	2 (2) (0)	0.020 (0.018) (0.002)
合計	10	0.115

期中の平均基準価額は、8,933円です。

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

(2017年8月14日現在)

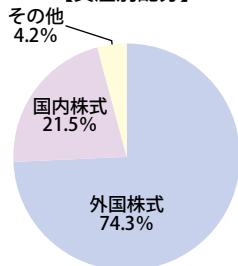
(組入銘柄数：52銘柄)

	銘柄名	通貨	比率
1	キーエンス	日本円	3.4%
2	ALPHABET INC-CLC	米ドル	3.1%
3	ファナック	日本円	3.0%
4	SIEMENS AG	ユーロ	2.9%
5	安川電機	日本円	2.9%
6	AMAZON.COM INC.	米ドル	2.7%
7	APPLE INC.	米ドル	2.5%
8	COGNEX CORP	米ドル	2.3%
9	INTUITIVE SURGICAL INC	米ドル	2.2%
10	ROCKWELL AUTOMATION INC	米ドル	2.2%

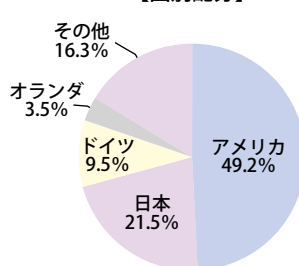
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

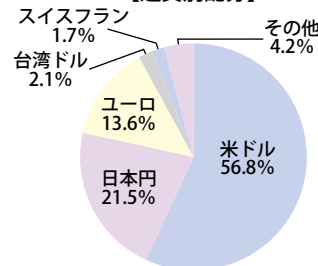
【資産別配分】



【国別配分】



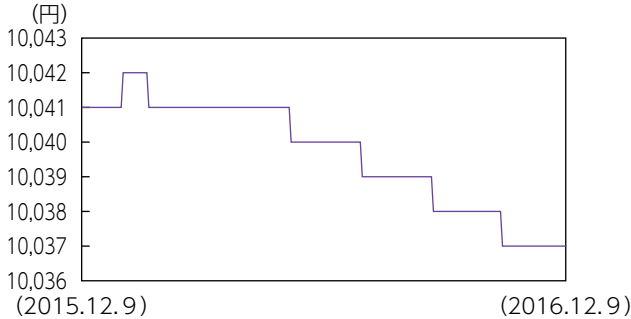
【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

◆ダイワ・マネースtock・マザーファンド (計算期間 2015年12月10日～2016年12月9日)

■基準価額の推移



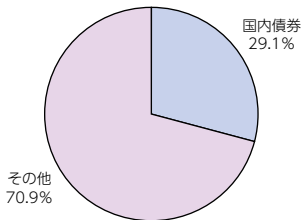
■1万口当りの費用の明細

項目	金額
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	0 (0)
合計	0

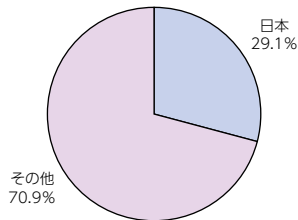
■上位銘柄

銘柄名	比率
632 国庫短期証券 2016/12/12	17.4%
635 国庫短期証券 2016/12/26	6.9
634 国庫短期証券 2016/12/19	4.9
組入銘柄数	3銘柄

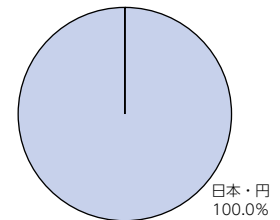
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については2ページ(1万口当りの費用の明細の項目の概要)をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 計算期間の運用経過、組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

大和投資信託

Daiwa Asset Management